

平成23年4月15日

お客様 各位

ベンチトップ機器の簡易動作確認方法のお知らせ

2011年3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震において、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

地震の影響を受けた可能性のある弊社ベンチトップ機器について、簡易的な動作確認方法を以下に記載いたします。ご参考になりましたら幸いに存じます。

内部で漏電、ショート、腐食などの問題が発生している可能性がある場合は、確認作業時十分ご注意ください。また、記載の簡易法にて動作確認はパスするが、実際に使用すると正常に作動しない、異音等がありましたら使用を止め、弊社テクニカルサポートまでご相談ください。

掲載機器

- ・iBlot® Gel Transfer Device
- ・BenchPro® 4100 Western Processing System
- ・Neon® Transfection System
- ・Countess® Automated Cell Counter
- ・Qubit® Fluorometer

〒108-0023 東京都港区芝浦4-2-8
ライフテクノロジーズジャパン株式会社
テクニカルサポート部
電話: 0120-477-392
E-Mail: jptech@lifetech.com

●iBlot[®] Gel Transfer Device

(スタックが1つ必要になります)

- 電源をオンにします。
- 冷却ファンの動作音がするか確認します。
- 本体ディスプレイにバージョン情報(2.X.X)と表示され、続いて登録プログラムが表示されるか確認します。
X は購入年月日により異なります。
- スタックをセットしプログラムP3 7 分間に設定してください。
- 蓋を閉めた後に、本体右のランプが赤く点灯するか確認します。
- スタートボタンを押し、ランプが赤から緑色に変わるか確認します。
- プログラム中、正常にカウントダウンが作動しているか確認します。
- プログラム終了時、赤いランプが点滅しビープ音がなるか確認します。
- ビープ音が鳴ったらスタートボタンを長押しし、ビープ音と赤いランプの点灯が終了するか確認します。
- 蓋を開けて、赤いランプが消灯するか確認します。
- スタックを取り出し、電源をオフにして終了です。

●BenchPro[®] 4100 Western Processing System

(ウェスタンカードを4つ、チューブ類もすべて必要になります。)

- 電源をオンにします。
- ディスプレイにバキュームチェックが表示されるか確認します。
- テストプログラムを設定します。

テストプログラム:

Blocking	1 time	1min	Return
1Ab	1 time	1min	Return
Wash	1 time	1min	Return
2Ab	1 time	1min	Return
Rinse	1 time	1min	Return

- プログラム設定時キーが正常に作動するか確認します。
- すべてのチューブに蒸留水を満たし本体にセットします。
- すべてのスロットにウェスタンカードをセットします。
- スタートボタンを押し、ウェスタンカードに蒸留水が満たされるか確認します。
- すべての工程で蒸留水が満たされるか確認します。
- プログラム終了時ウェスタンカードに蒸留水が満たされた状態で終了しているか確認します。
- ディスプレイに表示されているComplete を選択し、蒸留水がウェスタンカードより吸引されているか確認します。
- ウェスタンカードを取り出します。
- 溶液チューブを確認し、すべての溶液が回収されているか確認します。
- 溶液を捨て電源をオフにして終了です。

●Neon[®] Transfection System

- 電源を入れて正常に初期画面が起動することを確認します。
- 自己診断テスト(Diagnostic test) を行い、すべての項目がOK になることを確認します。
- optimization program ボタンを押し、#1 から#24 までの条件すべてスクリーン上で確認できます。
- database ボタンを押し、保存しているプロトコールが確認できます。

●Countess[®] Automated Cell Counter

(チャンバースライド1枚が必要になります。)

- 電源を入れて正常に初期画面が起動することを確認します。
- 細胞を表示する画面でゴミなどが見られないか確認します。
- そのまま[Count Cells] ボタンを押すと、 $<1.0 \times 10^4$ cells/ml でエラーが出るはずですが、
- USB メモリを差し、何かデータを保存できることを確認します。
[Save] ボタン > [View .CSV file] > [Save to USB] > データが保存されるはずですが、
- チャンバースライドを差しこんでカチッとハマることを確認します。
- フォーカスノブが正常に廻ることを確認します。
- フォーカスやカメラに異常がないかどうかは、実際にビーズや細胞を用いた確認が必要です。

●Qubit[®] Fluorometer

- 電源を入れて正常に初期画面が起動することを確認します。
- チューブ差し込み口が汚れていないことを確認します。
- Quant-iT[™] dsDNA BR を選択し、Go を何度か押して進めていくとチューブ差し込み口に青い光が見えることを確認します。
- Quant-iT[™] RNA を選択し、Go を何度か押して進めていくとチューブ差し込み口に赤い光が見えることを確認します。